

[原著論文：査読付]

N1聴解学習支援のためのAPP設計

夏 俊¹⁾，松田 高史²⁾，沙 秀程³⁾

Design of APP Supporting N1 Listening Learning

Jun XIA¹⁾，Takafumi MATUDA²⁾，Xiucheng SHA³⁾

Abstract

In the listening part of the level one of Japanese Language Proficiency Test, the vocabularies, grammars, styles and custom expressions learned in stages from the junior level to the senior level are needed to understand the sessions under all occasions including schools, workplaces and daily lives, etc. Learners need to solidly master the language knowledge, background knowledge and listening techniques on Japanese. In order to provide supports in the extracurricular listening practice for learners, this paper analyzes the techniques for the listening in the senior stage, and designs an APP to support the listening learning, which can be used to improve the listening level of the Japanese learners in the senior stage.

KEY WORDS : N1's listening comprehension; listening technique; app; content design

1) 長沙学院日本語学科
2) 九州共立大学名誉教授
3) 九州共立大学共通教育センター

1) Foreign Langue Department of Changsha College
2) Kyushu Kyoritsu University, Professor emeritus
3) Kyushu Kyoritsu University, Career and General Education Center

はじめに

日本語能力試験N1は日本語学習者にとって、日本語力を証明する重要な試験であるが、『日本語能力試験結果の概要』^{注1}の統計によると、新しい日本語能力試験一級（以下は「N1」と称する）の認定率は30%前後になっている。

その「聴解」部分は、初級から上級に至るまでの語彙、慣用表現、文型文法で構成される「学校」「職場」「日常生活」などの幅広い場面の発話内容を、1分間250字程度のスピードで1時間にわたって聞いて理解することが求められているので、日本での生活経験のない受験者にとって、難関になっている。

一方、中国の大学の日本語教育現場における聴解授業の時間数は限られている。筆者の勤める大学で1・2年生を対象に週に一回（90分）聴解授業（「初級日本語聴解」と「中級日本語聴解」）、3年生の前半で「時事聴解」という授業しか設けられていなく、この限られた時間で学習者の聴解力を高めることに困難が感じられる。

現場の教師として、如何に授業以外の時間でも、大量な練習を通じて聴解力を伸ばしてもらうのか、いかに言語知識のみならず、聴解に必要なストラテジーを身につけてもらうのか、真剣に考えるべき課題だと考える。

近年普及してきたスマホに掲載されるさまざまな学習ツールは、授業以外の聴解練習の助けになっている。本稿は日本語上級レベルの聴解の学習支援を目指して、聴解のストラテジーを導入した「N1聴解部分のための学習支援APP」の設計を試みようとするものである。N1試験は日本語上級のための試験であるため、本稿の考えるAPPは「上級聴解のための学習支援」にもなる。

1 N1聴解部分の出題について

『新しい「日本語能力試験」ガイドブック』^{注2}によると、N1聴解の認定の目安は「幅広い場面において自然なスピードの、まとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に理解したり、要旨を把握したりすることができる」ことである。試験の内容は「課題理解」「ポイント理解」「概要理解」「即時応答」「統合理解」という五つの大問からなっている。各大問の狙いは以下表1である。

表1 大問の狙い

課題理解	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（具体的な課題解決に必要な情報を聞きとり、次に何をするのが適当か理解できるかを問う）
ポイント理解	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（事前に示されている聞くべきことをふまえ、ポイントを絞って聞くことができるかを問う）
概要理解	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（テキスト全体から話者の意図や主張などを理解できるかどうかを問う）
即時応答	質問などの短い発話を聞いて、適切な応答が選択できるかを問う
統合理解	長めのテキストを聞いて、複数の情報を比較・統合しながら、内容が理解できるかを問う

注:表1は『新しい「日本語能力試験」ガイドブック』による。

表1のように、N1の聴解内容は長めのテキスト、まとまりのあるテキストもあるが、情報が希薄で、かつ瞬時の理解が求められる発話もある。主旨理解を考察する問題もあるが、ポイント理解などを考察する問題もある。また、本稿では、2010年から2015年のN1試験の過去問を調べ、N1の聴解内容は「日常・文化生活」、「職場生活」、「キャンパス生活」を中心に、「電話」「テレビ・ラジオ番組」「お店」「市役所」「病院」「スポーツジム」「家庭」「駅」「会社（事務所・工場）」「会社（会議）」「説明会」「講演会」「キャンパス」「授業」「大学の就職課」「ボランティア活動」「セミナー」「卒業式」等、多様な生活場面に及んでいる。それにともない、登場人物も店員と客、上司と部下、同僚同士、友達同士、先生と学生、医者と患者、親と子供、専門家、アナウンサー、コメンテーターなど、さまざまである。話題についても「環境保護」「就職」「買い物」「引っ越し」「約束変更」「映画・本の内容」「観光」「青少年犯罪への対応策」「高齢者の介護」「車の衝突事故」など、社会生活への普段からの知識情報・理解を問われる内容が多い。

いかに、一瞬で過ぎ去ってしまう外国の生活場面で起こる発話を聞き取るのか。語彙、文法、文型などの言語知識は言うまでもなく、背景知識の把握と連想、主題文と発話内容の予測、未知語や聞き漏れについての推測、記憶力を補うノートテキングなどは聴解力の向上に役立つスキルだと思い、APPの内容設計に取

りいれてみる。

2 N1の聴解部分についての対策

高梨（1982）によれば、リスニングでは、音からの単語認知能力、リアルタイムでの処理力、短期記憶保持力、認知に失敗した音声を予測で補う能力などの能力が必要だと述べている。

聴解力には直接的な能力、間接的な能力がともに要求されるのである。直接的な能力である理解力と識別能力（「理解力＝語彙、文法など」、識別能力＝音素、語、接続）は、普段の日本語授業で学んでいる。間接的な能力である思考能力（内容理解のための重要語の抽出）および「予測・推理」は、普段の授業での訓練が不足し、ともすれば本人の力量に左右される。

本稿では、聴解におけるこの間接的な能力をいかにして養うかを重点に考える。

間接的な能力は、別の観点からすれば「非言語的要素」に対応する能力とも言える。その内容は「背景知識の理解」「情報処理力」であり、それらの能力の向上を支えるのが「集中力」「記憶力」である。それらの能力習得のことをスキルの面で考えれば、「主題文探しのスキル」、次いで「予測のスキル」「推測のスキル」であろうし、それらのスキルで理解した内容を統合し確実にする役割を果たすのが「背景知識運用のスキル」、そして「ノートテキング」のスキルであろう。

以下の論説では、それらのスキルの内容について詳しく述べる。そのうえで、こうしたスキルを学習者が自学自習の場で伸ばすことに役立つAPPの構築を考案する。

2.1 主題文探しのスキル

聴解で長文を聞くと、「どこが要点なのか」がわからないと、主旨理解に差し支えることが多い。そこで「主題文」の判断が主旨理解の助けになる。

主題文判断のヒントは二つあるが、そのヒント1は言語的特徴である。主題文は主張・観点の表明、感情の表明、発話のまとめ、判断提示などを内容とする文なので、特定の接続詞、文末表現、動詞などの標識を帯びていることが多い。接続詞に因果関係を表す接続詞「なので、したがって、そこで、それで」、比較を表す接続詞「むしろ、それよりも」、まとめや換言を表す接続詞「言い換えれば、つまり、要するに、すなわち」、逆接を表す接続詞「しかし、ただ、でも、だが」などがある。文末表現に態度などのモダリティを表す

文末表現「のではないか、ことであろう、だろうか、べきだ、と言わざるを得ない、にほかならない、にすぎない、ねばならない、は否定できない、見直す必要がある」などがある。また、要望を表す表現「必要がある、ほしい、望ましい、期待する」、発話者の態度と願望を表す表現「見直す、期待する、望ましい、求められる」なども主題文に見られることが多い^{註3}。主題文判断のヒント2は発話における主題文の位置である。

夏等（2018）では2010年7月から2016年7月までのN1聴解部分「概要理解問題」の独話問題を分析して統計し、主題文の位置は「中括」、「尾括」「両括」「頭括」「分括」「潜括」^{註4}という順になっていることを観察した。主題文の位置は表2のようである。

表2 主題文の位置とその原因

順位	主題文の位置	原因
1	中括	導入—移行・逆接—主題文—補足（説明・解釈・例）
2	尾括	結論部分で締めくくる
3	両括	冒頭で主旨を示し、結論で締めくくる
4	分括	並列、対立、添加の構造であるため、主題文が散在する
5	潜括	読みながらまとめる必要がある
6	頭括	冒頭で主旨を示す

例（1）：

桜町といえば、山の斜面に畑が広がるのどかな風景が有名です。しかし、農家は後継者不足で高齢化が進み、この傾斜地での作業は負担が大きいため、雑草が伸びたまま手入れされない畑も多く見られました。そこで桜町では、近くの無人島のヤギを連れてきて畑に放牧し、雑草を除去することにしました。このヤギは、島に人がいなくなった後、野生化し、島の貴重な植物を食べ、生態系を破壊する恐れがあったため、いい機会だったというわけです。桜町では、野生のいのししによる農作物の被害も増えていましたが草むらがなくなったことで、警戒心が強いいのししは身を隠す場所を失って、寄り付かなくなったそうです。

（2015年12月N1聴解部分概要理解問題問5）

例（1）は中括の例で、「導入—移行—主題文—補足」の構造になっている。「しかし……そこで」という言語的特徴も、主題文判断のヒントを与えてくれているのであろう。夏等（2018）によると、「談話構造と主題文を把握するストラテジー」の有用性を測るために、

長沙学院日本語学科4年生を対象に調査したところ、談話構造・主題文の特徴を強調したことで、誤答率が10%近く下がったという結果が得られた。言語的特徴が伴わない場合も、談話構造と主題文の位置の把握に普段から敏感になっていれば、主題文判断、ひいては主旨判断の助けになると考える。

2.2 予測のスキル

蒔田(2014)によると、「予測」は理解を促進させたり発展させたりするために、テーマや既有知識など聴解前の情報や、聞いているときの文脈や話し手の音声的特徴から、後続するテキストや話し手の意図を予測する「円滑化」のストラテジーだという。

2.1で言及した「しかし・・・そこで」などの接続関係で主題文を予測することもできる一方、「発話者の社会的身分」を手がかりに、発話の意図を予測することもできる。夏等(2018)では、2010年—2015年のN1聴解部分の「概要理解」問題を考察して、「発言内容は、その社会的身分にふさわしい話題であることが普通である。たとえば、アナウンサーは社会現象の報道、コーディネーターはある事柄についての評価・評論、大学の先生は現象紹介・問題提起、専門家はある現象や問題の現状・原因・解決について語ることが多い」と「発話者の社会的身分+文脈」を手がかりに、発話の表現意図を把握することを主張している。

例(2)：

テレビでみどり市の市長が話しています。

男：我がみどり市の桜並木は多くの観光客が訪れる大切な観光資源です。ところが、昨年の春より、一部の桜に病気が発生しています。

(2018年7月N1聴解部分概要理解問題問3)

ここで予測をしてみよう。発話者は「市長」、話題は「去年の春より、一部の桜に病気が発生している」である。市長として市民に「市で発生した問題」を報告し、対応を知らせる義務があると予測できるだろう。

例(2)の続きは「何とか伐採せずに済む方法を模索しておりましたが、ほかの木への感染が予想以上にはやく、対応が後手に回っていました。毎年開催している桜まつりも、今年は中止を検討しています。新しく木を植えるためにも、木を切ることは避けられないと考えております」という内容である。

後続部分は「今までの対応」「今の状態」「これからの解決」という流れになり、選択肢「1 桜祭りに来る客を増やすための対策」「2 桜の木の病気に対する対

応」「3 桜の木を切ることに反対する運動」「4 桜の木を新たに植える取り組み」からは、4番の内容であることがわかる。無論、「発話者の社会的役割+文脈」で後続の内容を予測するには、社会・文化などについての背景知識も求められるので、日頃の観察や知識の積み重ねが必要である。

2.3 推測のスキル

蒔田(2014)は、「推測」を聞き取りの途中で問題が生じた際にそれを補完する「問題処理」のストラテジーとしている。「聞き取りの途中で生じた問題」とは聞き漏らし、未知語などである。このような時、語気、文脈、背景知識から推測することは有効な補完手段である。

例(3)：

今回の山下監督の新しい映画、何だかパツとしなかつたよ。

(2016年7月N1聴解部分即時応答問題問7)

例(3)は2016年の「即時応答」問題である。「即時応答」問題は発話が短く、文脈など参考になる情報は希薄であるが、発話者の語気が判断のヒントを提供してくれていることが多い。例(3)の場合、「パツとしない」の意味が分からなくても、話し手の不満ありげな口調で積極的に肯定的評価にならないことを推測し、およその発言意図は把握できるであろう。

例(4)：

女：週末に街を歩いてて見つけて、つい買っちゃった。

男：衝動買いしたのか。要らないもの買って、後悔したりしたことはない？

(2018年7月N1聴解部分即時応答問題問1)

例(4)の「衝動買い」という言葉が知らなくても、「ついて買っちゃった」「要らないもの買って、後悔したりしたことはない？」との文脈で意味を推測することができよう。

聴解APPに「推測のストラテジー」を導入して練習することによって、聞き漏らしや未知語があっても、語気や文脈や背景知識を使って内容を補完できる能力を身につけてもらいたいと思う。

2.4 背景知識運用のスキル

及川賢(2014)は、言葉そのものが易しくても、馴染みのない話題の場合、読む、あるいは聞くことに

困難を感じることもある。逆に、よく知っている分野の話題であれば、少々表現が難しくても、理解できることがあると指摘している。

例 (5) :

男の学生と女の学生が話しています。

女：ねえ、中山君、大学の近くの一軒家に住んでるんだってね。実家じゃなかったよね。

男：うん。石田さんという人のところなんだけど。[異世代ホームシェア] って言って、一人暮らしのお年寄りが学生向けに部屋を安く提供してくれてるんだ。いわゆる「下宿」だね。

女：へえー。お年寄りのところに下宿ってどんな感じ？

男：うん、生活リズムが違うし、お風呂に入る時間が遅いとか、電気はこまめに消してほしいとか、いろいろうるさく注意されることもあるけど。

女：へええ。

男：でも石田さん多趣味で博学だから、いろんなこと知ってて、話聞いていると気が付いたら深夜になってるってこともあるんだ。退屈しないよ。

女：ふんー。私だったら他人と生活するのは気を使っちゃうなあ。

男：まあ、それなりにね。でも、石田さんにしても、他人の僕が入ってきたわけだし、お互い様だから。

女：そっか。

[問]男の学生は、今住んでいる家での生活について、どう思っていますか？

(2016年7月N1聴解部分概要理解問題問1)

例 (5) の対話で、「一軒家とマンションなどの違い」、「大学生の多くが大学所在地で家を借りて暮らしている」、「日本の高齢化問題」などの背景知識があると、「異世代ホームシェア」「下宿する大学生」などのことは随分理解しやすくなるであろう。

本稿では、N1聴解部分の場面を「日常・文化生活」「職場生活」「キャンパス生活」に分け、2010年7月～2015年12月のN1聴解部分を統計したところ、「日常・文化生活」の場面は4割程度、「職場生活」は4割近く、「キャンパス生活」は約2割を占めていることがわかった。また、「日常・文化生活」場面に「日常生活の会話」、「社会・科学・文化知識」、「商品・製品の紹介」などがあり、「職場生活」は主に「会社の経営」、「商品の紹介・販売策」、「仕事のスケジュール」であり、「キャンパス生活」に「授業」、「各種の活動」、「論文・レポートの相談」などがあることが観察できた。これら

の場面や話題についての背景知識をAPPに導入して学習者に馴染んでもらおうと思う。

2.5 ノートテーキングのスキル

聴解内容を聞くとき、集中できなくなったり、内容を忘れていたりすることが多いので、ノートテーキングが必要になるが、「メモをしたら後続内容を聞き損なってしまう」「速くて、書く時間がない」などの声をよく耳にする。喋り出したら、最後まで止まらない音声内容にどう追いつき、メモするのか。肝心なのは「何を書く」「どう書く」かであり、書くべきはやはりキーワードや主題と思われる語・文である。また、それらが「どう関連するか」を、メモをしながら頭の片隅で整理・意識する訓練も必要であろう。

本稿の考えるキーワードは、「5W1H」等の基本情報、数字、発話構造と関係する接続詞、頻出語とその同義語、反対語である。特に接続詞で発話のロジック関係を理解したり、内容を関係づけたりすることができるので、メモすることを薦める。主題文は、2.1で述べたように、言語的特徴と主題文の位置で予測することが可能なので、その中のキーワードなどをメモすれば、主旨判断を助けることができるであろう。

また、時間が短いことを考慮すれば、メモの書き方については、漢字、仮名、母語のいずれも可能である。ノートテーキングにおける言語使用の原則は速く書くこと、後になって識別できることだと考えられる。

速く書くためのスキルに「記号法」「イメージ法」などもある。「記号法」については複雑で多数の記号を覚えるのに時間がかかるので、「下がる」を「↓」、「上がる・伸びる」を「↑」、「横這い」を「→」、「疑問」を感じる「？」など本人にとって簡単に使いやすい記号で記録できればいいと思われる。簡単な絵を書いてメモする「イメージ法」もある。例えば、天気雨の形成について、図1のようにメモすることができる。

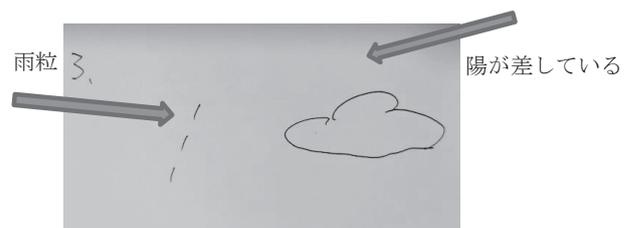


図1 天気雨のメモ(※印矢印とコメントは筆者が挿入)

ノートテーキングで、集中力を高め、記憶力を補い、積極的に聴解活動に取り込むことができるので、日頃

から練習しておく必要がある。たとえば授業中に教師が話す内容や、聴解の練習内容をメモするのが中心で、普段からテクニックを磨いて修練を積み、そのテクニックは文字映像がない聴解のみの場合にも大いに役に立つのであろう。

3 N1 聴解のためのAPP設計

聴解は日本語学習の難点である。授業外の時間を使って、きちんと時間管理・自己管理して聴解力を高めるには、聴解学習支援APPは有効な手段であろうと考える。一方、筆者の調査によると、日本においても中国においても、上級学習者向けのAPPがきわめて少なく、上級聴解アプリあるいはN1聴解アプリは、中国の言語教育ネットである「沪江网站」によって開発された『日本語聴解N1』しかなく、その内容も過去問の羅列だけである。指導法や学習法を取り入れた効率的な聴解学習支援APPが求められている。

本章では、前章で検討した聴解ストラテジーを「N1試験聴解学習支援のためのAPP」に取り入れ、その内容設計を試みる。

3.1 聴解スキルの学習機能

「聴解スキルの習得機能」では、「主題文探しのスキル」「予測のスキル」「推測のスキル」「背景知識運用のスキル」「ノートテーキングのスキル」などについて例や参考答案などを提供して、練習してもらう。以下はAPPの主なインターフェイスである。

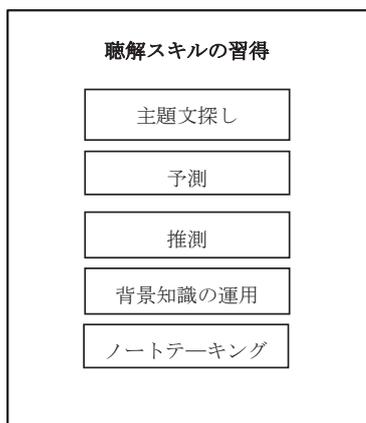


図2 聴解スキルの習得

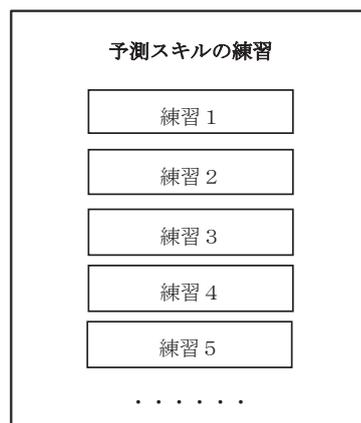


図3 予測スキルの練習

図2で「予測」ボタンをタッチすれば、図3の「予測スキルの練習」インターフェイスが表示される。図3で、たとえば練習1を選ぶ場合は、図4の内容が現れてくる。

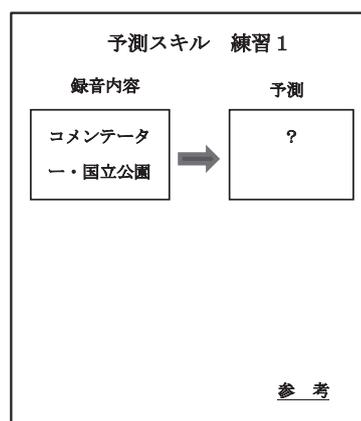


図4 予測スキル 練習1

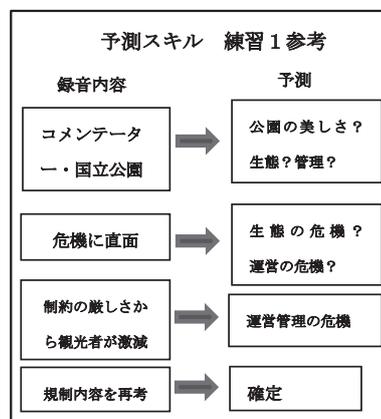


図5 予測スキル 練習1参考

図4では、録音を聴きながら、内容に合わせて順々

に予測していく。「参考」ボタンを押せば、図5のような予測するプロセスが参考できる。

音声による推測 練習1

1 録音を聞きなさい。

2 「パツとしない」はどんな意味？

参 考

図6 音声による推測 練習1

音声による推測 練習1参考

原文：今回の山下監督の新しい映画、何だかパツとしなかったよ。

話しぶり：女の人の声（話し方）は愉快そう？肯定的？×
がっかり？肯定的じゃない？○

↓

パツとしない：目立たない、特別じゃない

図7 音声による推測 練習1参考

図6は2016年7月の「即時応答」問題「今回の山下監督の新しい映画、何だかパツとしなかったよ」である。図7で示すように、話し方は肯定的気持ちに聞き取れないことから、「パツとしない」の意味が分からなくても、大意が推測できるであろう。

背景知識による推測 練習1参考

原文：昨日誘ってくれた週末のバーベキュー、行きたいのはやまやまなんだけど・・・。

文化背景：誘いを断るとき、相手の好意を損なわないように、どう表すか。

↓

「行きたいのはやまやま」＝「とても行きたい」

図8 背景知識による推測練習1参考

文脈による文の推測 練習1参考

プロのスポーツ選手は日頃からバランスのよい食事を意識し、なみなみならぬ努力とトレーニングを重ねることで、強くしなやかな肉体を手に入れています。中でもトップクラスの選手は肉体面に加え、「ここぞ」という緊迫した場面で平静を保つことができる強さをもっています。観客がかたずを飲んで見守るような場面でも動じることなく本来の力が発揮できる内面の強さ、試合で良い結果を出すにはこの点に特化したトレーニングが不可欠です。

図9 文脈による文の推測練習1参考

図8は背景知識で未知語を推測するプロセスである。誘いを断るとき、相手の好意を損なわないように、誘いを受けたという気持ちを前置きとする背景知識により、「行きたいのはやまやまだ」は「とても行きたい」と推測できよう。図9は「動じることなく」という後続文脈で聞き取れなかった下線「　」部分の意味を推測するインターフェイスである。

主題文探し 練習

1 録音を聞こう。
2 主題文を考えよう。

参 考

図10 主題文探し 練習1

主題文探し 練習1参考

桜町といえば、山の斜面に畑が広がるのどかな風景が有名です。しかし、農家は後継者不足で高齢化が進み、この傾斜地での作業は負担が大きいため、雑草が伸びたまま手入れされない畑も多く見られました。そこで桜町では、近くの無人島のヤギを連れてきて畑に放牧し、雑草を除去することにしました。このヤギは、島に人がいなくなった後、野生化し、島の貴重な植物を食べ、生態系を破壊する恐れがあったため、いい機会だったというわけです。桜町では、野生のいのししによる農作物の被害も増えていましたが草むらがなくなったことで、警戒心が強いいのししは身を隠す場所を失って、寄り付かなくなったそうです。

談話構造：導入—過渡—主題文—補充
 言語的特徴：しかし・・・そこで

図11 主題文探し 練習1参考

図10と図11は主題文探しの練習とその参考答案である。発話を聞きながら、リアルタイムで主題文を掴むには、かなりの習熟を要するので、APPを使って多くの発話例を聞き、文と文のつながりや談話構造の違いを見分ける練習をしてもらえればと思う。

メモの取り方 練習1

国立公園に指定されている桜高原が今、危機に直面しています。これまで、自然保護の観点から、地元の西山市によって、立ち入り人数や時間の規制がなされてきましたが、その制約の厳しさから、訪れる人が激減し、それによって、地元の人々の関心までも薄れてきているのです。桜高原では、これまで地元の非営利団体がボランティアを募って、清掃活動を行うなど、積極的に保護活動に取り組んできましたが、ここ数年は、人が集まらず、以前のような活動が出来なくなっているそうです。保護か公開か、二者択一ではなく、何のための公開か、その目的を再確認し、管理、運営のあり方を直すことが急務ではないでしょうか。自治体の対応が期待されます。

図12 メモの取り方練習1

メモの取り方 練習1 参考

コメン
 国 公 さくら
 きき
 しぜんほご
 { 人数 時間 きびしい
 人↓ }
 関 うす
 ボラン↓
 活動 ×
 管理 うんえい きゅうむ
 対応 きたい

図13 メモの取り方 練習1参考

メモの取り方は必ずしも同じわけではないが、如何にノートテキングしながら、次の内容に追いついていくのか、短縮やひらがな書きなどのテクニックをどのように使うかを体感できるまで練習してもらいたいと思い、図13のように、メモの取り方を参考に提供しようとする。

3.2 補助機能

補助機能では、まず、図14のように日本語能力試験N1の語彙、文型、初級文法などの必要な言語知識をまとめて提供する。図15のようにN1聴解の過去問も提供する。

言語知識のまとめ

毎日のN1単語
 同音異義語
 短縮省略語
 片仮名語
 慣用表現
 文型

図14 言語知識のまとめ

N1 聴解の過去問	
2010 年 7 月	
2010 年 12 月	
2011 年 7 月	
2011 年 12 月	
2012 年 7 月	
2012 年 12 月	
2013 年 7 月	
2013 年 12 月	
...	

図15 N1聴解の過去問

「毎日のN1単語」で毎日、N1範囲の単語（音声と例文付き）を30個更新する。単語数は、ユーザー自身の状況に応じて調節することができる。上級日本語で漢語が多いため、同音異義語も多くなる。たとえば、「交渉」「高尚」「公証」「口承」などの同音異義語の聞き分けは困難であるため、APPによる練習でこのような言葉をリストアップすることが必要だと思う。「ちゃ、なきゃ、とく」などの短縮省略形式、片仮名語や慣用表現、文型なども聴解内容の理解に影響するので、音声付きの例文を提示しながら少しずつ覚えてもらう。

また、「N1聴解の考察範囲が広い」、「聴解力を伸ばすのに積み重ねが欠かせない」、「一人で学習するのは孤独でつらい」などの特徴に対して以下のような対策を講じている。毎日聴解を練習するようにメッセージで促す。週に一回試験をして、得点歴をグラフにしたり、他人とPKしたりすることもできる。練習問題の正解を提示し、学習難点についても分析する。WechatのようなSNSアプリとの連携を前提に、勉強記録を呈示して、学習者同士で勉強状況を確認し合うことで、競争し合ったり励ましたりすることもできる。『大辞林』、『広辞苑』などの日本語オンライン辞書との連携を前提に、分からない単語や表現をオンラインで調べられるようにする。

今後の課題

日本語上級学習者の聴解力を伸ばすために、合理的な学習計画、適切な勉強方法をとおして多くの単語や慣用表現、文型になじみ、熟達した文法知識や豊かな文化理解などが求められる。授業だけではこれらの課題に対応できないことから、本稿では聴解のための学

習支援APPの構築を考案したものである。今後は、このAPPをさらに充実したものにするとともに、日本語力向上に欠かせない「語彙」と「文法」の知識を伸ばすための日本語学習支援APPの構築も模索したい。

注

- ① 独立行政法人国際交流基金，財団法人日本国際教育支援協会 『2016年第2回日本語能力試験結果の概要』[OL] 2016 <http://www.jlpt.jp/reference/materials.html?mode=pc>.
- ② 独立行政法人国際交流基金，財団法人日本国際教育支援協会 『新しい「日本語能力試験」ガイドブック』[OL] 2009 <http://www.jlpt.jp/reference/materials.html?mode=pc>.
- ③ 夏俊・松田高史・沙秀程（2019）「日本語聴解における短文の大意理解 —N1聴解の「概要理解」問題を中心に—」による。
- ④ 佐久間（2000）は、文章全体を統括する「主題文」の「文頭にある」「文中に集中する」「首尾にある」「文尾にある」「文中に分散する」「文章の背後に潜在する」という出現位置によって「文章型」を「頭括型」「中括型」「両括型」「尾括型」「分括型」「潜括型」の6種に分類している。

参考文献

- (1) 新しい「日本語能力試験」ガイドブック[Z]. 日本：独立行政法人，国際交流基金，財団法人，日本国際教育支援協会，2009
- (2) 市川孝（1978）『国語教育のための文章論概説』教育出版
- (3) 及川賢（2014）「文書理解における背景知識の重要性」[N]. 中学校英語，pp.2-4
- (4) 許夏玲（2014）「日本語教育におけるノートテイキングの意義：学習者側と教師側の観点から」[J]. 東京学芸大学紀要. 2014. (64), pp.517-525.
- (5) 佐久間（1986）「論説文の文章・文段構造と要約文の類型について」『日本語論集』2号，筑波大学留学生教育センター，pp.1-29
- (6) 高梨芳郎「聴解力の諸側面」Language Laboratory, Vol.19, pp.1-12, 1982
- (7) 杜 艶（2009）「聴解授業における推測ストラテジー指導の試み—「声のクローズ」の活動を通して—」『日本言語文化研究会論集』2009年第5号
- (8) 夏俊・松田高史・沙秀程（2019）「日本語聴解における短文の大意理解 —N1聴解の「概要理解」

問題を中心に」『九州共立大学研究紀要』第9巻第2号, pp.21-29

- (9) 夏俊・沙秀程・松田高史・張潔 (2018) 「N 1 のための読解APPの内容設計について」『九州共立大学研究紀要』第8巻第2号, pp.21—30
- (10) 蒔田雅子 (2014) 「聴解ストラテジー使用と手がかり—日本語母語話者, 上級学習者, 中級学習者の分析から—」『音声研究』第18巻第1号, pp.1-12
- (11) 水田澄子 (1996) 「独話聞き取りにみられる問題処理のストラテジー」『世界の日本語教育』6号, pp.49-64
- (12) 横山淳子 (2008) 『国際交流基金日本語教授法シリーズ5 聞くことを教える』ひつじ書房

Received date 2020年6月12日

Accepted date 2020年7月20日